

いずみニュースレター

発行元：社会福祉法人いずみ 東京都東村山市富士見町3-4-16

TEL:042-394-1868 平成28年1月発行 第3号

貧困や障害で苦しむ社会的弱者のために

東京小児療育病院院長（法人いずみ理事） 椎木 俊秀

日本の子どもの相対的貧困率が16.3%（2012年）になったということです。子ども6人に1人が貧困ラインにあり、その数は約300万人になります。相対的貧困率は年収が全国民の年収の中央値の半分に満たない国民の割合のことです。相対的貧困率が重要なのは、例えば国民の平均所得が同じであっても、多くの国民の所得が平均値に近いのか、極端に所得が多い層と極貧の層が二極化しているのか、その違いが明瞭になるからです。

16.3%という数字はOECD加盟国の中で比較的一人あたりのGDPが高い先進国20か国中、多い方から数えて4番目になります。3番目がイタリア、2番目がスペイン、1番はアメリカです。GDPが世界第1位のアメリカ、第3位の日本という経済大国で相対的貧困率が高いということは、いかに経済格差が広がり、それが改善されていないかということを意味しています。相対的貧困のレベルにある家庭の所得は3人世帯で約211万円、1人世帯で約122万円、1日の食事代は平均329円です。ひとり親世帯の相対的貧困率は54.6%でOECD20か国中、最も高い数字になりました。ひとり親世帯の8割以上が母子家庭です。非正規雇用も就業者の4割以上を占めるに至っています。年収

200万円以下のワーキングプアも1000万人を超えています。しかも、このような貧困が見えづらく、そのためなかなか世間に認知されづらい、そして貧困の世代間連鎖という問題もあります。

日々の診療・療育を通して貧困との関係を考えざるを得ない場面にたびたび遭遇し、その頻度も増えています。現代は富や狭い意味の「能力」をものさしにして人々を選別する時代になってしまいました。その偏った価値観の犠牲者が貧困や障害に苦しむ弱者や様々な少数派の人々だと言えます。障害児者を支援する場合、貧困を含めた生活にもしっかり目を向け、生活者として支援していかなければならないと思います。

個人の尊厳を基礎に違いを認め合う多様性に満ちた社会の形成を目指して、貧困、障害等で社会から疎外されている人々が自らの権利と幸福、そして結果的に社会の福利のために奮闘することが求められます。我々はそういう人々の支援者として、社会の現在と未来に貢献できることを願っています。



児童発達支援事業 定員 10 名



あゆみの家幼児部



所在地：東村山市富士見町 1 - 5 - 1 3

Tel. 042-393-7588

メール ayumi-youji@heart.ocn.ne.jp

HP <http://www.hm-izumi.org/>



『人への安心感と信頼』を育むことを大切に、0歳から就学前の「何らかのサポート」が必要なお子さんを対象に療育を提供しています。運動発達や知的発達のサポート、お友達関係のサポートや『楽しい!』『できた!』を積み重ねることができるよう、集団を活用したり、個別の対応を行っています。通園形態は年齢によって母子通園と単独通園があります。



えのぐあそび



帰りの会

療育内容：自由遊びとグループ保育/臨床心理士による行動背景の推察に基づく助言/遊びや生活に対する作業療法/運動発達に対する理学療法/音楽療法など。必要に応じて専門の医師に相談できます。

療育時間：月～金曜日 10:00～13:00または15:00

(母子通園か単独通園で異なります)

土曜日のみ行事を行うこともあります。

月1回土曜日10:00～15:00に施設開放をしています。



運動会

受け入れについて：定員に空きがあれば随時。直接お電話ください。見学日を設定します。

～園長先生
からの
メッセージ～

あゆみの家では、発達課題として『楽しめること』を大切に、安心できる環境で、保護者や信頼できる大人、友達と一緒に、夢中で遊べる環境を作ることを第一に考えて療育にあたっています。

言葉による提示だけでなく、一部マカトンサインや絵カード、写真を利用してお子さんが理解しやすい提示方法や、お子さん自身が見通しを持てるような工夫をしています。

職員一同、一人一人のお子さんの特性を受け止め、支えられるよう、保護者と話し合いながら取り組んでいます。どうぞお気軽にご相談、ご見学ください。



クッキング

重心型・生活介護事業 定員 20 名

あゆみの家成人部

所在地：東村山市富士見町 1 - 5 - 1 3

Tel. 042-394-6667

メール ayumi-seijin@heart.ocn.ne.jp

HP <http://www.hm-izumi.org/>

☆あゆみの家成人部では、地域社会の中で心身ともに健やかで生き生きとした生活を送れるよう、また持てる能力を十分にいかせるように支援しています。



タイムスケジュール

- 8 : 3 0 送迎開始
- 9 : 1 0 ~ 登園・ミーティング
(送迎車 2 台 4 便体制)
- 9 : 3 0 ~ グループ活動 (個別対応)
からだの時間
- 1 1 : 4 5 昼食・歯磨き
- 1 3 : 4 5 午後活動開始
(グループ・サークル・その他)
- 1 4 : 4 5 帰りの準備
- 1 5 : 1 5 送迎開始
- 1 7 : 1 5 送迎終了



成人部送迎バス



おはよう～ミーティングはじめます



皆さん大好きな温水プール



ギターに合わせて♪

あゆみの活動



色々な活動をみんなで考え、行っています。物作りが好きな方は、和紙染めや、革細工、ゲームで使用する小物など作ったり、体を動かす事が好きな方は、ボッチャやボウリング、風船バレーなどを楽しんでいます。からだの時間は、PT/O Tの指導の下、ストレッチや姿勢保持訓練を行っています。他にも音楽・園芸・ゲーム・スノーズレン、地域活動などがあります。施設の中に温水プールもあります。

年間行事の様子

施設交流会



多摩地域の施設交流会に参加しています。

合同祭り



お隣の施設と合同で演奏やゲームなどお祭りを開催。地域の方も参加して下さいます。

グループ外出



2～3 名のグループで牧場や公園などいつもと違う空間で楽しんできました。

宿泊旅行



3～5 名に分かれて行きました。

ボウリング大会



東大和ビックボックスに行き、1 位トロフィーを目指して頑張っています。

ボランティア・実習生



音楽・フルート・オカリナ演奏等、たくさんの方が来て下さいます。大学生の実習生も受け入れ、多くの人との出会いと活動を楽しんでいます。これからもよろしくお願い致します。新しいボランティアさん大歓迎です！！

生活介護事業 定員 30 名

ライフサポートつばさ

所在地：東村山市富士見町 3-4-16

Tel. 042-394-1761

メール asdq07@gold.ocn.ne.jp

HP <http://www.hm-izumi.org/>

私たちは主にこんなことをしています！



【PT/リハビリ】

ストレッチから歩行訓練まで、PT（理学療法士）が利用者ひとりひとりに合わせたプログラムを作成し、それに基づいてリハビリテーションを行っています。

【リラクゼーション】

足浴とスヌーズレンを希望者に提供しています。リラクセスできるので、みなさん楽しみにされています。

【レクリエーション】

野球 BAN やポッチャなどの‘運動レク’、トランプなどの‘テーブルゲーム’、感覚を刺激する‘ほのぼのタイム’など様々なプログラムを提供しています。



【創作活動】

書初め、七夕飾りなどの季節に合わせた創作活動も行っています。みなさんそれぞれの個性ある作品ができておもしろいですよ。

【MT(音楽療法)】

月に2回、ピアノや打楽器の音色に合わせてリズムを刻んだり、大きな声で歌うのはとても気持ちがいいですよ。

【生産活動】

敷地内にある自動販売機の清掃を定期的に行っています。また、様々な自主製品を作り、つばさ祭りなどで販売しています。売り上げは利用者の工賃になります。



【園芸】

種を植えて水をやって成長を観察して・・・収穫した野菜は味噌汁にしてみんなで食べたり・・・今度は何を植えようかな？

【健康管理】

専属の看護師を中心に毎日の健康チェック・服薬管理はかせません。毎月の計測や、年に一度の健康診断・歯科検診も行っています。

その他にも、年間行事として宿泊・つばさ祭り・忘年会・新年会・ゲーム大会などがあります。また希望者には、個別に一日外出・ランチ外出・調理活動などの提供も行っています。

児童発達支援事業 定員 5 名

未就学の重症心身障がい児を対象とした通所施設

ひまわり

所在地：東村山市富士見町 3-4-16

Tel. 042-306-3072

メール izumi-himawari@tmt.ne.jp

HP <http://www.hm-izumi.org/>



【ごあいさつ】

ひまわりは、定員 5 名ですが、園児、保護者、職員で毎日賑やかに楽しみながら、様々な療育を行っています。お子さんの僅かな表情の変化や全身の動きを受け止め、やりとりにつながるよう心がけています。

【活動・行事の様子】



運動遊び



プール



戸外



外出



運動会



父母療育

【療育内容・行事】

療育内容：運動遊び・感触遊び・製作活動・音楽遊び・戸外・スノーズレン・プール・足浴・調理活動

理学療法士による、運動、姿勢、呼吸等への支援。

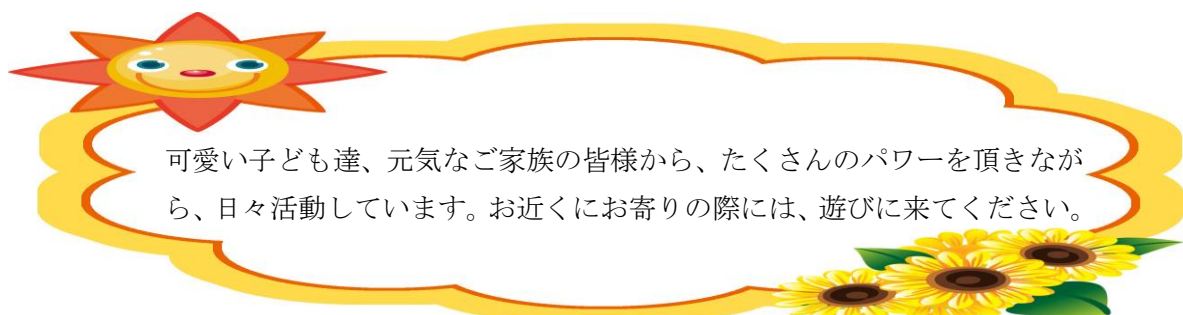
音楽療法士による、楽器等を使つての支援。

小児科医、整形外科医への個別相談。

行事：遠足（春・秋）・運動会・同窓会・父母療育・つばさ祭り・ハロウィン・クリスマス会・

外出・卒園修了式

園長からのメッセージ



特定相談支援事業

特定障害児相談支援事業

トビラ

所在地：東村山市富士見町3-4-16

Tel. 070-6425-3180

HP <http://www.hm-izumi.org/>



トビラは

障害児者とその家族が、その意思や希望に応じて、地域で安心して暮らし続けることが出来るよう、適切な福祉サービスなどを受けられるよう支援します。



相談室

相談支援事業の対象となる方は？

- ① 東村山市とその近隣市に対し、障害福祉サービス(身体介護・重度訪問介護・短期入所等のサービス)を申請する障害児者です。
- ② 東村山市とその近隣市に対し、障害児通所支援(児童発達支援事業や放課後等デイサービス等)の利用を申請する障害児とその家族です。

事業の内容は？

サービス等利用計画・障害児支援計画の作成と支給決定後の計画の見直し(モニタリング)を行います。
他障害福祉サービス情報提供のお手伝いをします。

居宅介護・重度訪問介護・移動支援事業所

ホームヘルプひだまり

所在地：東村山市野口町2-9-25
Tel. 042-394-5644
メール hidamari1504@amail.plala.or.jp
HP <http://www.hm-izumi.org/>



<はじめに>

2003年4月にあゆみの会（肢体不自由児・者父母の会）の中で、『ホームヘルプひだまり』が誕生し、その後2003年8月にNPO法人に衣替えしました。約8年強の経過を経て2011年6月より社会福祉法人いずみと合同し、現在に至っています。

<特 長>

あゆみの会の利用者及び、重度の利用者が多数サービスを利用しているところにあります。

ホームヘルプひだまりは、現在 居宅介護・重度訪問介護を東村山市を含む4市で24時間、365日サービスを提供することができる事業所です。また、障害者移動支援事業のサービスも提供しております。

<支援内容>

【平 日】

主に通学・通所の準備や入浴等をおこなっております。

【土曜日、日曜日、祝祭日】

特に余暇時間の充足を担うサービスを提供しております。



イベントの1コマ

食の駅 所沢に行ってきました。
みなさん食べ過ぎてお腹イッパイ
特別な1日になりました。

ご利用にあたりお気軽にお問い合わせください。可能な限りサポートさせていただきます。

サービス提供責任者 会田 美信
新井 貴人

放課後等デイサービス事業 定員 10 名

「スマイル」



所在地：東村山市野口町 2-9-25

Tel. 042-394-7231

メール ayul226@khaki.plala.or.jp

ツイッター @nogutityou



どんなに重い障害を持つ子どもたちも、学校と家庭のみの生活ではなく、自分の住んでいる地域での放課後活動を楽しむ機会をつくってあげたい……。そんな思いから、あゆみの会時代の平成10年、『スマイル』はスタートしました。

平成14年12月からはNPOあゆみが事業運営にあたり、その後平成23年度からは社会福祉法人いずみが事業運営。通所訓練等事業から児童デイサービスⅡ型を経て現在の放課後等デイサービス事業に至っています。登録対象児童は小学1年生から高校3年生まで。平成27年12月現在、肢体不自由児を中心に24名の子ども達（小平・村山・清瀬、各特別支援学校通学児童）が元気に通っています。

活動内容

屋内活動：体操・読み聞かせ・音楽遊び・制作等
 屋外活動：散歩・コンサート・舞台鑑賞
 季節行事：誕生日会・七夕・夏祭り・縁日ごっこ
 クリスマス・おもちゃつき・ひな祭り等
 宿泊訓練（年1回1泊）、遠足、社会見学、
 電車体験、親子交流会、学習会等の開催
 合同夏まつり開催（隣接高齢福祉施設と合同開催）
 いずみコンサート 参加など



～子どもまつりへ参加～



～訓練室での様子～



開所曜日 月～金曜日（祝日・年末年始は閉所日）

サービス提供時間 通常 14:00～18:00

＊下校時間により異なる

学校休業期間等 10:00～17:00

学校送迎：小平特別支援学校・雨天時その他のバス停

＊原則として自宅送迎は行っておりません。

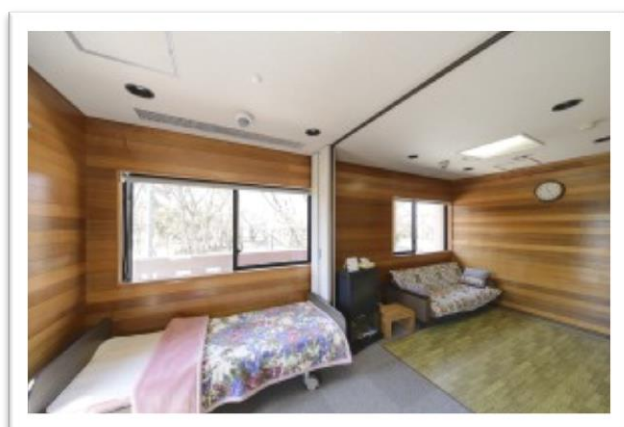
他学校、他学年のお友達と共に日々にはげやかな活動を行っています。
 施設見学は随時受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

日中一時支援・短期入所事業 養育支援訪問事業

所在地：東村山市富士見町1-5-13
Tel. 042-393-7599



日中一時支援・短期入所事業は東村山市内在住で障害手帳をお持ちの方を対象とし、あゆみの家2階等を使用し、保護者の方が安心して預けられる場所、利用者が安全に楽しくすごせる場所をモットーに、「スマイル」・ひだまりのスタッフと連携し、支援にあたっております。支援中は散歩をしたり、コンビニにおやつを買いに行ったり、ひだまりの利用者とおしゃべりをしたりと、ゆったりなごやかにすごしています。



養育支援訪問事業は東村山市が、養育支援が特に必要であると判断した家庭に対し、ヘルパーを派遣し適切な養育の実施を確保することを目的とした事業です。ヘルパーの支援が入ることにより、育児ストレスや不安、孤立感などが少しでも軽減できる様、子育て経験のあるヘルパーを中心にした体制を作っております。

どちらの事業も東村山市の委託事業です。市のホームページにものっておりますが、どうぞお気軽にお問合せ下さい。

責任者 星 美佐子

硝子戸の向こう

連載企画 第2回

理事長 福岡憲二

泥の中の蓮の花 四肢切断の中村久子の生涯

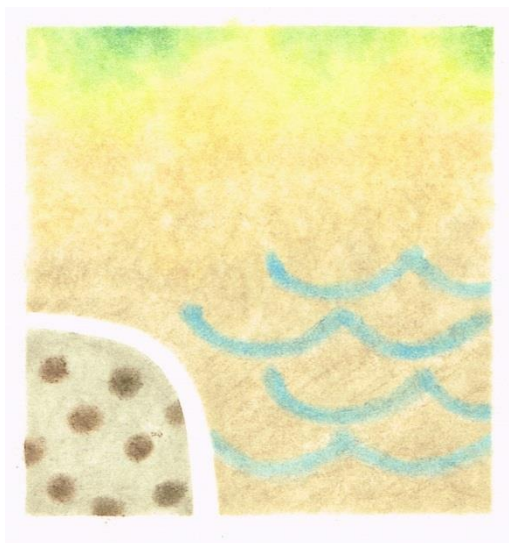
5年前 東京都の身体障害者相談員研修に参加した折、いいお話を伺いました。小職の胸の内だけに留めるには惜しくて、当時のNPOあゆみのニュースレターでご紹介した話です。中村久子さんについて、何冊もの本になったりしていますし、もう既にご存じの方もいらっしゃると思いますが、その時の講師を務められた竹内正直さんという方のお話の概略を中心に、今一度紹介させていただきます。

中村久さんは、1897年（明治30年）岐阜県高山で父・釜鳴栄太郎と母・あやの長女として生まれ、1968年（昭和43年）72歳で亡くなった人で、幼少のとき四肢切断の運命にさらされ、それでも克己し、差別と偏見、貧困にも勇敢に立ち向かい、精一杯の努力を重ねて、誇り高い人生を全うされた人です。

1899年、2歳の時、霜焼けから凍傷になり、高熱と激しい痛みと苦しみに昼夜なく襲われ、それがもとで3歳で突発性脱疽となる。ある日久子は激しく泣き叫び、左手首が崩れ落ちる。両親は決心して、右手は手首、左足は膝とかかとの中間、右足はかかとかから切断手術する。たった3歳で両手、両足切断するという数奇な生い立ちを背負い、闘病生活が始まる。同時に周囲の冷たくも無理解な差別の目にさらされます。

1904年、7歳の時、昼職人であった父・栄太郎が死ぬ。続いて10歳の時、5歳の弟が育児院へおくられ生別する。極貧の家庭の中ではあったが、実家の祖母から読み書きを教わり、母は、親なき後に備えてと、台所仕事、針仕事、掃除、洗濯、作法に至るまで家事全般、普通以上のしつけを施し、その子育てのお陰で、10歳で着物の洗い張り等を、不自由な手足と包帯の先に縛り付けた指代わりの割り箸で器用にこなし、15歳では着物を仕立てるようになり、近所から注文を取って内職をし、家計を支えるようになった。

1917年、20歳の時、母の再婚相手の義理の父に、見世物小屋に売りとばされ高山を離れて、一人暮らしを始める。久子は小屋の看板として、「だるま娘」と名づけられ、出しもので、不自由な手足を器用に操り、折り紙等紙細工、裁縫、編み物、刺繍等を素早くきれいに仕上げ、口での糸結び・短冊書きもやってのけて各地で評判を得る。日本全国は勿論、当時日本の統治下にあった朝鮮、台湾、満州まで巡業に流れ歩く。



久子は見世物小屋で働き始めた時、「恩恵にすがって生きれば、甘えから抜け出せない。一人で生きていかなければ」と決心する。一生障害者福祉制度を受けることはなかった、という。24歳で一応年季明けとなるが、北海道巡業中には、母の死、弟の死を聞く。久子は結婚・出産・育児・こどもや夫との死別・再婚・離婚・再再婚・肺結核など苦労に次々に遭遇、その生涯で4人の夫と出会うが内二人は死別、一人とはその極道がもとで離婚。また3人の女の子を産むが、三女は1歳で早逝した由。

また、後に第1人者の書家となる沖六鳳と出会い、書道に没頭、書家として名を成す。六鳳から「泥の中の蓮であれ」と説かれ、これを胸に刻んだ。

1926年、(30歳)の時、寝たきり生活のクリスチャン 座古愛子女史に出会い、「生かされている」事に気づく。座古愛子とは初対面であったにもかかわらず、目と目を交わしたその瞬間、無言のまま、互いの目から涙がせきを切って流れた。

久子は後に「魂の交流する世界 それはどんなにか尊い数秒間であつたろう」と。「自分よりももっと辛い運命を背負いながら誰一人恨むどころか感謝の日々を送っている人がいる」と述べた。

1937年(41歳) 4月、東京日比谷公会堂でヘレン・ケラー女史と会見。

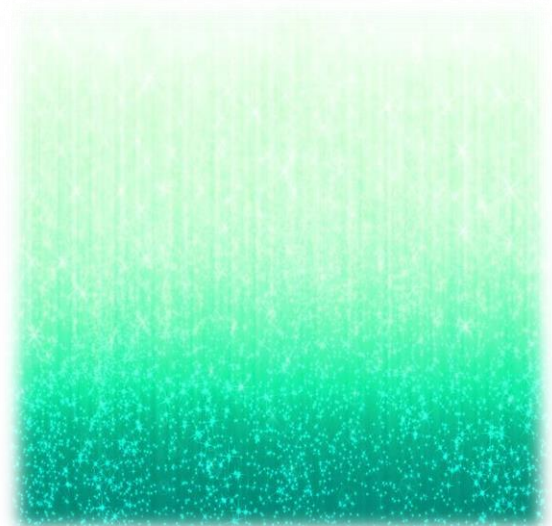
「そうっと両手で私の両肩から下へ撫でてくださり、私の袖の中の短い腕先に触られた瞬間、ハッとお顔の動きが変わりました。下半身を撫でてくださったとき、両足が義足とお分かりになった・・・再び私を抱えて長い間接吻され、両眼から熱い涙をあふれさせられました。私自身も、頬を涙に濡らして女史の左肩にうつ伏しました。」ヘレン・ケラーは久子を「私より不幸なひと そして私より偉大なひと」と称賛し、

日比谷公会堂はその日満堂、涙で揺れた由。

1938年(42歳)、「歎異抄」を学ぶ。「人生に絶望なし。逆境こそ恩寵なり」「手足のない状態は、泥のような状態だと思っていたが、悪いのは泥ではない。泥があるおかげで、自分は蓮のように花開くことができた。」と。

1942年(46歳) 20数年間の見世物芸人の生活と決別。以来、夫敏雄や次女の富子に背負われて、婦人会、PTA、学校、寺、刑務所、病院、施設、新聞社等へ講演して回る。久子は自分の体について「無手無足は仏より賜った身体、それなりに生かされている喜びと尊さ」を語り、「そのおかげで強く生きられる機会を貰った」と感謝し、「人間は肉体のみで生きるのではなく、心で生きるのだ」と語った。この全国講演は、久子の死の直前まで続く。後に高山市身障者福祉会の初代会長に就任、ヘレン・ケラーとも3度目の会見を果たし、1962年には、身体障害者の代表として天皇陛下に拝謁を賜った。

1968年3月、脳溢血で高山市の自宅で永眠。数奇で波乱に満ちた生涯。努力の人、見事な人。渾身の人生。**享年72歳**。遺言により遺体は献体された由。



～ 今後のトピックス～

2月13日（土） 社会福祉法人いずみ主催講演会のお知らせ

「身体障がい児・者のライフステージに沿ったリハビリテーション」

～身体障がい児・者の成長発達、機能回復・維持、生活の質の向上

のためのリハビリテーションをからだの仕組みを学びながら考える～

講師：植村 修 医師 （村山医療センター勤務、ひまわり嘱託医）

講演時間：13：30～15：30 会場：東村山市役所 北庁舎 1階 第2会議室

入場無料、直接会場にお越しください、

問合せ先：ひまわり 江崎 042-306-3072

4月 1日（金） 事業新設のお知らせ

重症心身障害児放課後等デイサービス マカロン（愛称） 5名定員 を

放課後等デイサービス事業所「スマイル」に付加、多機能型事業所へ変更届申請手

続き中、4月1日開業予定。

4月16日（土） コンサート&子育て体験談 10：00～11：30

於：あゆみの家幼児部 入場無料

問合せ先：あゆみの家幼児部 松本 042-393-7588

～編集後記～

寒さ続く候、新年を迎え、皆様はお正月をどのように過ごされましたでしょうか。寝正月、帰省、もしくは旅行、スキーなど楽しめたでしょうか。ひょっとして体調を崩されていたという方もいたかもしれませんね。

数年前お正月休みを利用して福島県裏磐梯高原に出掛けた際、クロスカントリースキーコース内を、椅子を改造したそりに乗って楽しんでいる一行を見かけました。乾いた雪にそりを進めると、静かな森の中に、グュー、グューと音がなり響きます。

「スマイル」利用の子ども達も雪は大好き。東京で雪が降った時には必ず雪合戦で大はしゃぎ。車いす利用者である彼らも一度、あのそりを使った遊びを思う存分できると、きっと大喜びするだろうと感じたことを思い起こしました。ゆめ・ねがい・おもいが日頃の職務推進の源になっています。

「スマイル」管理者 梶沼 知徳

